



第12回
(2026年度)
募 集

眼科領域（網膜領域）研究助成プログラム

バイエル レチナ・アワード

バイエル レチナ・アワードは、網膜疾患（後眼部領域）の科学的理解と臨床における診断、治療、患者マネジメントの発展に寄与するため、2015年に設立された研究助成プログラムです。

日本国内の大学、医療機関、研究機関等に所属する研究者を対象として、優れた研究計画に対して助成を行うことにより、わが国の眼科医学の一層の進歩に寄与することを目的としております。

本募集要項をご参照の上、皆様のご応募をお願い申し上げます。



この研究助成プログラムは、眼科領域（網膜領域）における疾患の科学的理解の促進と医学的進歩に寄与することを目的とする。

応募要件

- (1) 日本国内の大学、医療機関、研究機関等で眼科医学（網膜領域）に関する研究に携わる45歳未満（2026年4月1日時点）の研究者。
- (2) 申請者は応募に当たって、所属機関の長・病院長または担当教授・部門長の承認を得るものとする。
- (3) 研究課題は網膜領域（後眼部領域）に関わるものであって、**基礎研究（非臨床）および臨床研究を含む**。また、厚生労働省が定める所定の要件を満たすものであること。

厚生労働省ホームページ

研究に関する指針

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyoku/i-kenkyu/>

臨床研究法について

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html>

- (4) バイエル薬品あるいはBayer社が製造販売元あるいは販売元である製品を用いる研究は対象外とする。
- (5) 他社の医薬品・医療機器に特化した研究は対象外とする。
- (6) 臨床研究の場合、所定の倫理審査を受け承認されることを条件とする。
- (7) 応募者は、助成を受けた研究課題に関して、所定の進捗および結果報告を行うことに同意すること。

研究助成金

- (1) 研究金額 1件最高300万円
- (2) 助成件数 最大4件
- (3) 使 途 本研究に直接必要な物品等の購入および経費（間接経費等の諸経費込）
以下の費用は対象外とする。（詳細は別表を参照ください）
 - ① 医療機関などが行う通常の医療業務に対する費用（健康保険でカバーされる項目等）
 - ② 医療機関などが自ら支出すべき費用の肩代わりと見做されるおそれのある費用
 - ・ 研究代表者や共同研究者など職員の通常人件費*
 - ・ 学会年会費
 - ・ 留学にかかわる渡航費
 - ・ 本研究に関連することが明確でない会議費
 - ・ 本研究以外へも汎用できる可能性があると見做される機器類（PC、記録用メディア、ソフトウェア等）
 - ・ 備品費（通常備えるべき什器、機器の修理・整備費用等）
 - ・ 学会関連費用（本研究の発表等に関連する学会参加費や旅費）は助成希望金額の15%以下を目安とする。本研究の学会発表者の参加費や交通費に限定。
 - ・ 雑誌・書籍などの年間購読費用 等

※本研究のために必須な補助的人員等の経費に限る。
- (4) 助成の対象および制限
 - ① 公的助成（例：科学研究費補助金等）との併給は、当該助成規定に準ずるものとする。*
 - ② 同一研究課題に対して他の民間機関（Bayer社を含む）からの助成金を受けている場合は対象外とする。
 - ③ 原則として研究者の交代は認められない。
 - ④ 本アワードを受賞したことがある者は対象外とする。

※但し、レチナアワード応募に際し、応募研究は公的助成と全く同一の課題、内容でないことに留意すること。

応募方法

所定の申請書に必要事項を記入し、右記の事務局ホームページより電子メールで送付すること。

（申請書は <http://rinsho-kenkyu.org/retina-ap> からダウンロード可能）

応募受付期間

2026年10月1日(木)～2026年12月10日(木)※

※応募受付期間の締め切り日については変更する可能性がありますので、バイエル レチナ・アワードのHP (<https://rinsho-kenkyu.org/retina-ap/>) をご確認ください。

スケジュール

2026年			2027年					
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
一次応募期間 2026年10月1日(木)～ 2026年12月10日(木)		一次審査実施		一次評価 採択 一次審査結果(応募者) および 二次審査対象者通知	二次応募期間	二次審査 実施	最終選考 会議	審査結果 公表 二次審査結果通知(対象者) および バイエル レチナ・アワード ホームページにて公表

選考の方法および採否通知、助成金の給付

- (1) 当研究助成プログラムの審査委員会において、下記の過程で審査を行い、最終採否・助成金額が決定される。
最終採否は2027年5月下旬(予定)迄に申請者宛に電子メールにて通知する。
【一次審査】研究目論見書の提出を受け、内容を審査委員会において審査の上、採否を通知する。
一次審査採択案件の申請者は所定の二次審査用書類の提出を求められる。
【二次審査】提出された二次審査用書類を元に、同委員会にて審査を行い、最終助成対象を決定する。
- (2) 研究助成金は助成決定者に金融機関振込により交付する。
- (3) 助成決定者は2028年4月時点で、研究成果報告書を提出すること。

助成金の受給方法

助成決定者の所属機関の規定に基づいた処理方法にて受給する。

審 査 応募案件の審査は下記審査委員があたり、バイエル薬品株式会社の社員は審査に関与しない。

審査委員長 石橋 達朗 先生 (九州大学・総長)

審査委員 石田 晋 先生 (北海道大学大学院医学研究院 眼科学教室・教授)
(50音順) 大野 京子 先生 (東京科学大学 眼科学教室・教授)
五味 文 先生 (兵庫医科大学 眼科学教室・教授)
近藤 峰生 先生 (三重大学大学院医学系研究科 臨床医学系講座 眼科学・教授)
坂本 泰二 先生 (公益財団法人慈愛会 今村総合病院 眼科・網膜センター長)

申請書提出先

眼科領域(網膜領域)研究助成プログラム バイエル レチナ・アワード事務局

〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀2丁目2-20 (株式会社コンド)

<http://rinsho-kenkyu.org/retina-ap/>

バイエル レチナ

検索

お問合せ

retina-ap@rinsho-kenkyu.org

申請に際しご留意いただきたい事項

1. 本助成制度は、透明性・公平性・独立性を確保するため、バイエル薬品(株)とは異なる外部の事務局にて運用しております。
2. 本助成制度は、申請に基づき審査を経て助成決定するもので、バイエル薬品から助成を提案することはありません。また、バイエル薬品社員が申請に関して支援することはできません。
3. 申請にあたっては、必ず、ご所属の研究機関の寄附規定等をご確認ください。助成決定の通知後でも、手続き中に寄附の受入れ体制が無いこと等が確認できた場合は、助成できません。
4. 日本製薬工業協会およびバイエル薬品の透明性ガイドラインに基づき、当該研究助成は公開区分「B学術研究助成費」の「研究助成金」として、助成先の施設・所属の名称、件数、金額、を公開いたします。あらかじめご同意の上、申請してください。
※原則、申請時の名称で公開いたしますが、貴施設の開示方針が定められている場合は事務局までご連絡ください。
5. 応募書類等に含まれる個人情報、本助成プログラムの審査・通知に必要な業務に限って使用するものとします。

別表 助成対象とならない項目の詳細（研究予算総額の内訳に算定されることは問題ありません）

費用項目例	助成対象＊注意点あり	助成対象外
	助成希望金額の内訳として記載されていた場合、以下の制限内で助成対象となります	助成希望金額の内訳として記載されていた場合、助成対象とはなりません
人件費 本研究のための補助的人員等に別途掛かる経費	本研究のために必須な補助的人員等の経費に限ります	研究代表者や共同研究者など職員の通常人件費
器具、備品、機器等の費用 本研究に特化し、本研究に限定して使用される物品に掛かる費用	本研究のために必須で他への汎用性のない消耗品に限りますチップ、チューブなどの実験器具 等	本研究のための購入後も本研究以外へ汎用できる可能性があると思われる物品 通常備えるべき什器や設備備品にかかる費用 パソコン、モニター、および電子機器・通信機器、記録用メディア、ソフトウェア等の購入費 機器の修理・整備費用 電子機器にかかる回線・通信費用 ソフトウェア使用のライセンス費用 等
学会関連費用 本研究の発表等に関連する学会参加費や旅費	助成希望金額の15%以下を目安とします 本研究の学会発表者の参加費や交通費に限定します ＊研究報告で参加した具体的な学会名などを記入いただきます	学会年会費 発表者以外に関わる費用
会議費 本研究に関連する会議に掛かる費用	助成希望金額の15%以下を目安とします ＊研究報告で実際の会議回数、各参加者数を記入いただきます	本研究に関連することが明確ではない会議費 飲食代、懇親会費 事務局等管理費（事務所賃貸料、通信費、什器代 等）
その他 具体的な内容を必ず記載してください	投稿費用、外注検査費用 等	雑誌・書籍などの年間購読費用 等 留学にかかわる渡航費等

※別表に記載していない項目については別途ご相談下さい。

例) 助成希望金額が300万円で、その内訳に「PC代20万円」や「学会関連費用90万円」が含まれている場合、「PC代20万円(全額)」「学会関連費用45万円(15%超過分)」が差し引かれ、助成対象上限金額は235万円となりますのでご注意下さい。

第11回 (2025年度) 受賞者	■ 末研究地域を対象とした遺伝性網膜ジストロフィのゲノム研究による精密医療の高度化と治療標的創出 九州大学大学院医学研究院 眼病態イメージング講座 秋山 雅人 先生 ■ マルチオミクス解析を駆使した網膜色素変性症の脂質代謝解剖と治療標的化 東京大学医学部附属病院 眼科 小野 喬 先生 ■ 網膜色素上皮を起点とした強度近視に伴う近視性網膜症の病態解明と新規治療ターゲットの同定 大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学（眼科学） 後藤 聡 先生 ■ 全ゲノム解析と動物モデルの併用による近視または強度近視の病態解明および治療法の開発 京都大学大学院医学研究科 眼科学教室 保倉 祥太 先生
第10回 (2024年度) 受賞者	■ 加齢黄斑変性とパーキンソン病の共通病態の探索 北海道大学大学院 医学研究院 眼科学教室 水門 由佳 先生 ■ 網膜DNA損傷のメカニズムの解明と加齢黄斑変性における新規治療ターゲットの探索 慶應義塾大学医学部 眼科学教室 富田 洋平 先生 ■ 深層学習を用いた3次元脈絡膜構造解析プログラムによる健常および疾患眼の解剖学的特徴の解明と疾患リスクの同定 大阪大学大学院 医学系研究科 感覚器外科学 眼科学 原 千佳子 先生 ■ ダイレクトリプログラミングによる高効率かつ網膜高次構造を維持した視細胞の再生 筑波大学 医学医療系 先端視覚医学/再生幹細胞生物学 福田 慎一 先生
第9回 (2023年度) 受賞者	■ 自然免疫記憶を用いた加齢黄斑変性に対する革新的治療の開発 京都大学医学部附属病院 眼科 畑 匡佑 先生 ■ コレステロール代謝制御による加齢黄斑変性に対する新規治療法の開発 慶應義塾大学医学部 眼科学教室 伴 紀充 先生 ■ 網羅的脂質解析による加齢黄斑変性の新規治療法開発への挑戦 順天堂大学医学部 眼科講講座 平形 寿彬 先生 ■ 広角網膜走査型多局所網膜電図の開発と近視による網膜機能変化の探索 帝京大学医療技術学部 視能矯正学科 広田 雅和 先生
第8回 (2022年度) 受賞者	■ 先端電子顕微鏡を用いた幹細胞由来網膜シート移植後の網膜中心窩視機能ネットワーク再生の検討 千葉大学大学院 医学研究院 眼科学 秋葉 龍太郎 先生 ■ フェロトシス経路を基軸とした眼球形態異常の病態解明 東京大学医学部 眼科 上田 高志 先生 ■ 網膜マイクログリアの極性制御に着目した糖尿病網膜症の病態解明と新規治療法の開発 順天堂大学医学部附属 浦安病院 眼科 大内 亜由美 先生 ■ 眼底像の徹底的な数値化によるOculomicsの深化、発展 鹿児島大学病院 感覚器センター 眼科 寺崎 寛人 先生
第7回 (2021年度) 受賞者	■ 自己免疫性網膜症における抗網膜抗体プロファイルとダイナミクスの検討 北海道大学大学院 眼科学教室 安藤 亮 先生 ■ 加齢黄斑変性前駆病変におけるオートファジー系小胞融合の病態解明と治療標的探索 九州大学病院 眼科 納富 昭司 先生 ■ ボロン酸と硝子体中ヒアルロン酸の動的結合を利用した新規眼内DDS 筑波大学 眼科 村上 智哉 先生 ■ 内因性光感受性網膜神経節細胞障害による生体リズムの乱れが眼血流へ及ぼす影響 奈良県立医科大学 眼科学教室 吉川 匡宣 先生
第6回 (2020年度) 受賞者	■ 網膜色素上皮細胞移植に資する細胞シート用キャリアデバイスの開発 横浜市立大学附属総合医療センター 視覚再生外科 北畑 将平 先生 ■ 超広角OCTと機械学習によるセグメンテーションを用いた新規3次元硝子体撮影技術の確立 東京医科歯科大学 眼科 高橋 洋如 先生 ■ 豚眼レーザーベックル法を用いた実験的眼圧変動に対する網脈絡膜血流・自己調節機構の解明と眼灌流圧臨界点の探索 東邦大学医療センター佐倉病院 眼科/アイオワ大学 眼科 橋本 りゅう也 先生 ■ マルチオミクス解析による中心性漿液性脈絡網膜症とバキコロイド新生血管の病態解明 京都大学大学院医学研究科 眼科学 三宅 正裕 先生
第5回 (2019年度) 受賞者	■ 難治性眼内線維増殖に対する形質転換を標的とした新規治療薬の開発 九州大学大学院 医学研究院 眼科学分野 石川 桂二郎 先生 ■ オミックス解析による黄斑浮腫の新規バイオマーカーの確立と治療法の開発 東京医科大学 臨床医学系 眼科学分野 臼井 嘉彦 先生 ■ シリコンオイル関連視力低下(SORVL)の病態解明 名古屋大学 医学部附属病院 眼科 兼子 裕規 先生 ■ 脂質メディエーターからアプローチする網膜疾患の病態解明と治療戦略への応用 東京大学大学院 医学系研究科 眼科学教室 寺尾 亮 先生
第4回 (2018年度) 受賞者	■ 糖尿病網膜症における分子シャペロンα-クリスタリンの分泌機序とその役割 北海道大学大学院 医学研究院眼科学教室 加瀬 諭 先生 ■ 網膜脈絡膜炎性疾患における分子バイオマーカーとイメージングバイオマーカーの統合的解析 東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科眼科学 鴨居 功樹 先生 ■ 網膜血管閉塞疾患の慢性化を制御する分子機構の解明 大阪大学大学院 医学系研究科脳神経感覚器外科学 福嶋 葉子 先生 ■ 網膜変性におけるRIPK/ネクロプーシスの活性局在の解明と新規治療戦略の確立 九州大学大学院 医学研究院眼科学 村上 祐介 先生
第3回 (2017年度) 受賞者	■ 糖尿病網膜における in vivo functional imaging 神戸大学 医学部附属病院眼科 橘原 仙太郎 先生 ■ 血管内皮コロニー形成細胞由来放出性細胞外小胞の血管再生効果 大阪大学大学院 医学系研究科眼科学 崎元 晋 先生 ■ 抗VEGF 療法抵抗性DME の炎症をターゲットとしたイメージングと病態解明 九州大学病院 眼科 中尾 新太郎 先生 ■ microRNAによる難治性網膜剥離の病態解明と新規治療法の開発 杏林大学 医学部眼科学教室 廣田 和成 先生
第2回 (2016年度) 受賞者	■ 受容体結合プロレニン系を介した眼疾患病態形成機序の解明と創薬開発 北海道大学大学院 医学研究院 眼科学教室 神田 敦宏 先生 ■ 網膜黄斑浮腫の細胞外遊離ATPに着目した病態解明とBBG投与による治療戦略 九州大学病院 眼科 久富 智朗 先生 ■ 新規臨界ハイドロゲルを用いた人工硝子体の開発および網膜剥離治療用眼内タンポナーデとしての応用 筑波大学医学医療系 眼科 星 崇仁 先生 ■ Müller細胞に着目した脈絡膜血管新生メカニズムの解明と新規分子標的治療の開発 東京医科歯科大学 眼科 吉田 武史 先生
第1回 (2015年度) 受賞者	■ 網膜色素変性における慢性炎症とその制御 九州大学病院 眼科 池田 康博 先生 ■ ペリサイト消失網膜症モデルマウスを用いた創薬開発 名古屋市立大学大学院医学研究科 網膜血管生物学寄附講座 植村 明嘉 先生 ■ 眼内メタボロームの概日リズムから迫る、網膜血管新生の分子基盤 大分大学医学部 眼科学講座 楠瀬 直喜 先生 ■ 内境界膜翻転法および内境界膜自家移植による難治性黄斑円孔の閉鎖メカニズムの解明 岡山大学病院 眼科 森實 祐基 先生